
矛盾ネセサリー

狐林庵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

矛盾ネセサリー

【Nコード】

N8481H

【作者名】

狐林庵

【あらすじ】

「助けて欲しい」そう言って私の前に現れたのは6年前に出会った人形のような人。この再会が少女の日常を狂わせた。1偽りだらけの国サークラ。政府によって作られた名だけの首相。政府の都合のよいように歪められた歴史。全てが政府によって作られた偽物。……でも貴方達は、貴方達と過ごすこの時間は一きつと偽物なんかじゃない。

(前書き)

グロイ表現が苦手な方は御注意下さい

深夜0時過ぎ。人の家に訪れるにはあまりにも非常識な時間帯。

ビーとくぐもったインターホンが静まり返った室内に響いた。

私はゆっくりとベットから降り、玄関のドアを開ける。

普通の客ではないだろう、こんな夜中に。

ドアを開けた瞬間、向こうに居る者の手で殺されるかもしれない。そういう想像は容易に出来た。

だが、それでも別にいい。特別生に執着しているわけでもないし、何かこの世に思い入れがあるわけでもないのだから。

しかし、ドアの向こうに立っていたのは、所々破けた灰色の長袖のシャツを着ている血だらけの背の高い女性。

季節関係なく一年中吊している風鈴が、風もないのにリンと鳴った。

「助けて欲しい」

「え？」

紅を引いたように真っ赤な唇を少し開いた後、力尽きたのか彼女は私の肩にもたれ掛かり気を失った。

「ちょ、ちよっとー」

確かに普通の客ではない。
しかしこれは！。

「私を殺しに来た殺人鬼よりたちが悪いのかもしれない」

小さく溜息を吐き、戸惑いながらも私は玄関のドアを閉めた。

#

「国民の皆様お早うございます。只今午前8時です」

町毎に設置してあるスピーカーがお決まりの言葉を発するのが聞こえた。

ゆっくりと頭を持ち上げ、上半身を起こす。

結局昨夜は、一睡も出来なかった。

私は今自分の部屋の床の上に居る。非常識な客はベットでこの家の住民が床だというのも可笑しな話だ。

隣のベットには、昨夜の女性が眠っている。

しかも、私はこの人物に見覚えがあった。

少し長いプラチナブロンドの髪。雪の様に真っ白な肌。長い睫毛。スツと通っている鼻筋。薔薇のように毒々しい唇。

全てが作り物のようだ。

この世の者には思えないその風貌を見間違える筈がない。そして、更に決定づけるのが左下の羽が欠けた揚羽蝶のネックレス。

確かにあの時！。

「ん」

その時、彼女がゆっくりと瞼を上げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8481h/>

矛盾ネセサリー

2010年10月15日23時59分発行